

故久楽勝行土木研究所機械施工部長を追悼して

平成五年二月一日早朝、故久楽勝行機械施工部長が不帰の客とされました。

故久楽部長は、昭和四十三年三月九州大学大学院工学研究科修士課程を修了され、同年四月建設省土木研究所に採用された後、千葉支所機械施工部土質研究室主任研究員、土質研究室長などの要職を歴任され、その中であって昭和五十八年十月には九州大学より工学博士の学位を授与されました。平成三年四月には機械施工部長となられ、公共事業の基盤である土質工学の研究開発にその一生を捧げられました。



二十五年におよぶ土木研究所での研究内容は、土の基本的性質、河川構造物、軟弱地盤対策、道路のり面、地中構造物、土質改良などに関する伝統的な研究分野から、ジオテキスタイル、ジオメンブレン、発泡スチロールを用いた軽量盛土工法、ハイグレードソイルといった新技術の分野まで実に幅広いものでありました。

さらに、部長は、土木学会、土質工学会、日本道路協会、国際ジオテキスタイル学会などの学会・協会活動においてもリーダーシップを遺憾なく発揮し、道路土工指針や河川砂防技術基準を始めとする多数の技術基準類や著書を取りまとめられ、行政のみならず産業界、学会からも広く人望を集めておられました。

これからの多大な活躍が期待されていた矢先に、不幸にして病魔の侵すところとなり、入院加療という事態となりましたが、一日も早く完治されて研究業務に復帰されることを心より祈念しておりました。しかし、二月一日朝方、突然の訃報に接しましたことは、痛恨の極みであり、大きな柱を失った無念の思いでいっぱいです。

入院中も仕事のことに心を配られ、先日行われた土木研究所講演会の原稿を執筆されたり、うわ言でも仕事のことがばかりを口にされていたと御家族の方から伺っています。私にとりましては、入所以来15年の長きに及び文字通り手塩にかけて育てていただいた大恩師にあたります。仕事に対する情熱と気概、人と接するときの誠実さと深い配慮など身をもって示していただき、その教えに少しでも近づけるよう努力を続けてまいりたいと決意を新たにしております。

最後に私どもの深い感謝と尽きぬ惜別の情を受けられるとともに、残されました御家族につきましては、できる限りの対策をもってのぞむこととお誓いいたしますので、安らかに永眠されるようお祈りいたしまして追悼のことばといたします。

建設省土木研究所 三 木 博 史